



令和7年3月1日現在	世帯数	人口
新村	1,340	1,505
世帯	1,505	1,603
男女	1,603	1,603
合計	3,108	3,108

真冬の熱戦!! 冬季室内競技大会

2月2日、芝沢体育館にて第37回目となる冬季室内競技大会を開催しました。今年も午前中は綱引きの部、午後は卓球の部として、町会対抗で行いました。

綱引きの部には5町会が参加し、盛大な応援の中、各町会が力いっぱい綱を引き、下新北町会が昨年に引き続き見事優勝を果たしました。

午後は卓球の部を開催しました。昨年までは競技性が高く、町会の交流イベントとしては参加のハードルが上が



応援にも熱が入る



まな板でスマッシュ!



親子でダブルス!

いものがランダムに)③ネットは通常の2倍の高さ④大人も子どもと一緒にプレー⑤何度でも選手交代OK。

まな板のサイズや材質が異なるため、力加減を調整するのが難しく、参加者は戸惑いながらも工夫してプレーしていました。また、くじ引きでラケットが決まるため、勝敗は実力だけでなく「くじ運」も大きく影響するという、まさに「おかしな」大会となりました。

記念すべき第1回大会の優勝は東新町会。幸運を味方につけながら、見事なプレーを見せてくれました。

今回は6町会が参加し、笑いが絶えない楽しい時間となりました。思いがけないファインプレーも続出し、大いに盛り上がるイベントとなりました。初めての試みのため課題もありましたが、今後

結果
◆綱引きの部
(5町会参加)
優勝 下新北
準優勝 上新北
3位 南新東

◆卓球の部
(6町会参加)
優勝 東新
準優勝 山王
3位 上新西

「誰でも楽しく参加できる」「おかしな卓球大会」を開催していきたいと思

ものぐさ大学

美術館巡り・

ロートレックと浮世絵

2月27日、参加者21名で松本市美術館の「ロートレック展」・日本浮世絵博物館の「浮世絵でめぐる信州」を鑑賞してきました。ロートレックは、ポスターがまだ芸術として認められていなかった19世紀末のパリで人々の度肝を抜くデザインのポスターを次々と描き、その斬新さが賛否両論を巻き起こした画家です。やがて彼のポスターは市民の心をつかみ、街の壁から次々と盗まれるほどの人気を博することとなり、フランスを代表する画家のひとつと呼ばれるまでになります。彼は裕福な貴族の家に生まれますが、14歳の時の2度の骨折事故により、足は短いまま成長を止めてしまいます。歩くのにも不自由したロートレックは貴族同士のつきあいから遠ざけられます。居場所をなくした彼は次第に絵の世界に没頭していきま

街モンマルトルでした。ようやく居場所を見つけた彼は、酒場に入り浸り、そこに集う人々の様々な人生を写しとろうとしました。店の片隅で膨大なデッサンを描き続けましたが、周囲の人々は社交的な彼の人柄に惹かれ、モデルを快く引き受けたとい

時の流れは 電車とともに

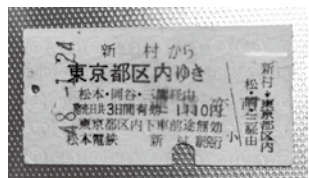
アルピコ交通「上高地線」の新聞記事を目にすることが増えました。

創業者の「上條信」が鉄路を引いた時は地域の足として歓迎、運行をしてきましたが、災害や廃線の危機もありました。

会社がアルピコホールディングスの経営に代わり、株式上場を果たすまでに発展してきました。

上場記念の切符を発行したとのことですが、長年使用してきた紙の硬券切符は2月末で廃止され、黒っぽい磁気のペラペラの切符になり、味気なく感じられます。かつては駅の改札で駅員さんに銚子を入れていただき乗車していただきましたね。

2月中頃まで、下新駅待合室に上高地線沿線の紹介地図



上條信さんは現在までの上高地線の変遷をいかに思うだろうか？
切符や車窓の景色は変わっていても、上高地線はずっと走り続けると願っています。

が張られていました。松本駅から新島々まで住民が知らない情報が満載で、よく調べたものだと感心して見ていました。撤去されてしまいい残念です。ぜひ復活していただきたいと思います。

サッカーの開幕を迎え山雅FC応援の記事もありました。

電車のヘッドマーク・J2昇格祈願の片道切符など、鉄道がイベントのコマースシャル媒体となっているようです。

駅舎には、次に来る電車の時刻案内がデジタル表示されるようになりました。

車内放送は英語・中国語・韓国語のアナウンスが流れ、インバウンドの到来を身近に感じられます。

3月9日には、平成11年から運行されていた3000形モハ10形のオレンジのリバイバルカラーの車両が惜しまれながら定時運行から引退しました。沿線は「撮り鉄」のカメラで賑わっていました。

上條信さんは現在までの上高地線の変遷をいかに思うだろうか？

切符や車窓の景色は変わっていても、上高地線はずっと走り続けると願っています。

地域が動き出すための「対話」

2月16日、松本市中央公民館（Mウイング）にて「未来へつなぐ私たちのまちづくりの集い」が行われました。午前中の全体会では、松本大学



分科会でのグループワーク

午後は6つの分科会に分かれて話し合いが行われ、合わせて約330人が参加しました。

向井准教授は、地域が動き出すための出発点として、住民が課題を共有していることに注目。また、活動の過程では丁寧な「対話」が行われていることがわかりました。対話の中で自分の出した声が認められ、反映されていく経験の積み重ねが、住民の主体性を引き出し、地域を動かしていく秘訣だと言えそうです。

松本大学「あるぷすタウン」開催！

2月22日から23日にかけて、松本大学にて「あるぷすタウン」が開催されました。



消防服を着て体験！



「とても楽しかった」と感想をもらい、保護者の方からも「社会を実際に体験できる貴重な経験」「ぜひ来年も開催してほしい」などの意見をいただきました。

このイベントは、小学生を対象に、職業体験をしながら実際に市民としての生活経験を豊かにするのが目的です。会場内では、働く・給料をもらう・買い物をする・納税をするなど、様々なプログラムを経て、子供たちが自ら考え、行動し社会の仕組みを学ぶことができます。また、あるぷすタウン独自の通貨「Yume」（ユメ）を使い、お金の使い方も学ぶことができます。

第7回となる今年は、警察や消防、自衛隊、鉄道、ウエディングなど15の職業が体験として展開されました。消防の職業体験では、実際に消防服を着てホースでの放水訓練を行いました。このほかにも、自衛隊では災害派遣の体験として、学内で障害物の復旧作業も行いました。スノーパードのレジ打ち、品出しの体験、五平餅の販売体験など様々な分野の社会に参加しました。参加した子供からは、「来年もまた来たい」



カフェでコーヒーの提供体験！